

DIALOG(R) File 347:JAPIO

(c) 2003 JPO & JAPIO. All rts. reserv.

00509935

INK JET PRINTER

PUB. NO.: 54-161935 A]

PUBLISHED: December 22, 1979 (19791222)

INVENTOR(s): SAITO SHIZUO

APPLICANT(s): SEIKO EPSON CORP [415136] (A Japanese Company or Corporation), JP (Japan)

SEIKO EPSON CORP [000236] (A Japanese Company or Corporation), JP (Japan)

APPL. NO.: 53-070572 [JP 7870572]

FILED: June 12, 1978 (19780612)

INTL CLASS: [2] B41J-003/04

JAPIO CLASS: 29.4 (PRECISION INSTRUMENTS -- Business Machines); 44.7 (COMMUNICATION -- Facsimile); 45.3 (INFORMATION PROCESSING -- Input Output Units)

JAPIO KEYWORD: R005 (PIEZOELECTRIC FERROELECTRIC SUBSTANCES); R007 (ULTRASONIC WAVES); R020 (VACUUM TECHNIQUES); R021 (HIGH PRESSURE TECHNIQUES); R105 (INFORMATION PROCESSING -- Ink Jet Printers)

JOURNAL: Section: E, Section No. 173, Vol. 04, No. 24, Pg. 43, February 29, 1980 (19800229)

#### ABSTRACT

PURPOSE: To obtain a micro-miniature head and prevent choking of its orifice by abruptly gasifying liquid and letting the same spout from the nozzle in an ink on demand system.

CONSTITUTION: Ink 23 in an ink well 24 communicates with the ink chamber 22 of the housing 16 of a head 25. The heating element 17 near an orifice 21 is sandwiched by an electrode 18 and is thereby energized. The ink then gasifies and causes volume expansion. part of the ink near the orifice 21 becomes a gas 26 which forces out the ink 27. As the gas temperature rises upon rising of the temperature of the heating element 17, the gas 28 spouts out and at the same time ink particles 29 are also injected. At the same instant of jetting out of the ink particles 31, the gas 30 absorbs the energy of the heating element 17 and is released to the outside, resulting in that the orifice 21 maintains balance with the outside pressure under surface tension as with the end 32 of the ink.



⑯日本国特許庁(JP)

⑮特許出願公開

⑰公開特許公報(A)

昭54-161935

⑪Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 41 J 3/04

識別記号 ⑫日本分類  
103 K 0

⑬公開 広54年(1979)12月22日  
6662-2C

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 9 頁)

⑭インクジェットプリンター

⑮特 願 昭53-70572

⑯出 願 昭53(1978)6月12日

⑰發明者 斎藤静雄

塩尻市大字広丘原新田80番地  
信州精器株式会社広丘工場内

⑱出願人 信州精器株式会社

諏訪市大和3丁目3番5号

同

株式会社諏訪精工舎

東京都中央区銀座4丁目3番4

号

⑲代理人 弁理士 最上務

明細書

ジェットプリンター。

発明の名称 インクジェットプリンター

特許請求の範囲

1. 1個以上のノズルからインク粒子を噴射して文字画素を表示するインクオンディマンド方式のインクジェットプリンターに於て、インクを噴射させる為の手段としてオリフィスと連通するインク路または圧力室のインク層とを遮断し隣接する加圧室を設け、加圧室内の液体をガス化させることによりインク層を加圧し1滴以上インクを噴射させることを特徴とするインクジェットプリンター。

2. ガス化した噴出ガスは少なくともインク吐出口を離し、インク吐出口またはインク吐出口付近より噴出することを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のインクジェットプリンター。

3. ガス化する手段として発熱体を用いることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載のインク

発明の詳細な説明

本発明はインクジェットプリンターのインクオントライマンド方式に係り、特にヘッド部の構造及びインク噴射に必要な圧力印加方式及び機構に関するもの。

本発明の目的は超小型ヘッドの提供にある。

本発明の他の目的は、液体を急激にガス化させることによりインクオンディマンド型のインクジェットプリンターを可能せしめることにある。

本発明の更に他の目的は、ガス化したガスをノズルまたはノズルの付近より噴出させることによってオリフィスの目詰りを防止することにある。

本発明は、特に高密度型ヘッドのインクジェットプリンターに適し、ヘンディ電卓では薄型に、タイプライター、端末器に於てはドット密度の高い高印字品質型に、またカラー伝送、端末器等広範囲に効果が大きく、IC製造技術を駆使すれば安価なヘッドの供給が可能となる。

従来のインクジェットプリンターは、インクを連続的に流出させノズルを振動子によつて機械的に振動させることによつてインクを小滴に形成せしめ、次にノズル前方に設置された帯電電極を利用して、噴射された各インク小滴に情報パターンに応じた電荷を付与し、更に高電圧電界を発生する偏向電極板をインク小滴の飛行空間に設置して、一定高電圧電界を通過するインク小滴を各小滴の電荷量に応じて偏向させ、それにより所定の情報パターンを記録紙上に形成するという方式である。この方式は次のような欠点をもつ。即ち、インクに連続的圧力を与えるために加圧装置を必要とする、またノズルを高速振動させるために構造が複雑となると共に、電気回路も高電圧ドライバーと複雑な制御が必要となり、またノズルから連続的にインク小滴が噴射されるため不必要なインクが多く、再使用するにしても余計な装置が必要となる等である。

更に、米国特許2512743号明細書に示されている方式によれば、インクを満たしたホーン状の

ノズル内に、機械的共振周波数で超音波衝撃波を連続的に発生させ、衝撃波がノズルの内部傾斜面に沿つて大径部から小径部に移動していく過程で、衝撃波の強さが増大し、この超音波衝撃波によつてインクに生ずるキャビテーションの気泡作用により、ノズルの端部からインクの噴霧を噴射するものである。しかしこの方式には次の欠点がある。この装置は機械的共振によつて定まる一定速度で動作する。噴射系は一滴の噴射後に平衡状態に復元しないため、1個の電気的信号に応答して1滴のインク小滴を形成することはできず、多数の信号の複合した共振効果がインク噴射に必要である。インクは噴霧状に噴射されるので高精度の情報パターンを得るために制御することは困難である。従つてこの方式はこのままでは汎用のインクジェットプリンターに用いることはできない。

更に、前記インクジェット方式を改善した従来のインクオンダイマンド方式を第1図(A)、(B)、(C)に示す。

第1図(A)は従来の構造例であり、1はヘッ

トで、圧力室5の部分を形成するハウジング2から成つている。3はインク槽よりのインクを圧力室5に送るインク入力管である。4はオリフィスで、圧電素子6に処理した電極7、9間より出力された入力線8、10間に電圧を印加することにより、圧電素子6を歪ませて圧力板ハウジング201により歪方向を規定し、圧力室5内のインク13を外に噴出させる。前記動作が第1図(B)と第1図(C)によつて示され、第1図(B)は、矢印11方向に圧力を加えてインク粒子12を噴出した状態で、第1図(C)は、インク粒子12を噴出した後矢印15方向に圧電素子6を歪ませオリフィス4の圧力をインク噴出方向と反対側にして、インク13の先端14のようにインク13を切つた状態である。この一連の動作にてインクを飛ばす。この時の圧電素子6はインク13を噴射させるための歪量を必要とするが、一般的には圧電素子、歪電素子等の歪量は数千 $\mu$ であり、圧電素子は最低10 $\mu$ 以上必要となり、ヘッドの外径寸法も10 $\mu$ 以上と大きくなる。従つて数ドッ

トの複合ヘッドの製造は構造が難しく、サーマルヘッド並みの寸法のヘッドの製作は不可能である。

本発明はこれらの欠点を除去したもので、この目的を達成するための原理として、圧力室内の圧力変化が大きく且つ急激な圧力変化のある特性を有する方式及び機構でなければならない。実施例を第2図、第3図にて説明する。

第2図(A)に於て、インク槽24のインク23はヘッド25のハウジング16のインク室22と連通している。20 $\mu$  ~ 50 $\mu$ であるオリフィス21の近くの発熱体17は、インク路のインク23に接して外周に接触面積が大きいように設置され、電極18に挿されて端子19、20よりエネルギー印加される。

インクの噴射を第2図(B)、(C)、(D)にて説明する。第2図(B)、(C)、(D)はヘッド25の略図である。第2図(B)に於て、発熱体17に通電すると、発熱体付近のインク23は26に示す如くガス化して体積膨脹を起す。この時の一般的な圧力は、液体から気体にな

る時、1モルは224L/0°C 1気圧であるから、例として水、水蒸気(0:0)の分子量18.0であるから、1モルは18.0となり、1mlの水が気化すると

$$V = \frac{224L}{18 \times 10^{-3}} \approx 1244$$

となる。つまり1ccの水は1244倍に膨脹する。また水蒸気圧は100°Cの時1気圧とすれば200°Cの時15.34、500°Cの時84.78気圧と上昇する。

従つてオリフィス21近くのインク23の一部はガス化してガス26となりインク27を押し出し、更に第2図(O)の様に、発熱体17の温度が上昇してガス圧も上昇するとガス28は噴出し、同時にインク粒子29も噴射する。第2図(D)に示すようにインク粒子31が噴射と同時にガス30は発熱体17のエネルギーを吸収して外に放出され、発熱体17にエネルギー印加されない限り、オリフィス21はインクの先端32の如く表面張力で外圧とのバランスを保つ。この一連の動作を行なえば文字画素の表示(印刷も含む)

が可能であるわけであるが、液体をガス化してインク23を飛ばす効果は、膨脹率が大きいために圧力室が小さくて良く、従つてコンパクトなインクジェットが可能となる。また膨脅率が大きいということは圧力が高いということであり、オリフィスの目詰り、噴射バラツキ等を考慮しなくても良い。更に、ガス化の手段として発熱効果を使用すれば、オリフィス内に仮にガスが残った場合に於ても、ガスは膨脹等分の1に縮小されインクにもどる。また製造に於ても発熱体は抵抗体等で良く製造し易く安価である。発熱温度もサーマルプリンター程度あれば充分であり技術的にも問題はない。インクオンデイマント型インクジェットプリンターは体積変化が急激でなければならないが、加熱を急激にすることによつて急激な体積変化が可能であり、効果は大きい。尚発熱体はインク面と接している方がより効率が良く、体積膨脹変化のスピードも速い。

第3図は第2図での説明のヘッドを複数とりつけたもので、複数ヘッド33のハウジングには、

インク供給口34よりインク室35にインクが補給され、36, 37, 38, 39, 40, 41, 42の各々のオリフィスと連結させて7ヘッドが構成され、発熱部361, 371, 381, 391, 401, 411, 421を、共通電極43と、45, 46, 47, 48, 49, 50, 51の各ヘッドの発熱部連結電極が出力され、共通引出線44と各ヘッド引出線451, 461, 471, 481, 491, 501, 511との間にエネルギーが印加されて、第2図の説明の如くインクを噴射させる。

本発明では、複数ドットの場合に於ても全体が縮小でき、当社での一次試作では7ドットヘッドを第3図の範囲にて3mm×2mmの大きさにまとめた。

このように本発明によれば複数ヘッドも小型に製作可能であり、従来に比べて部品コストの低減と、ヘッドの高精度化等、製作上の利点が多い。

更に他の実施例を第4図にて説明する。第4図(A)に於いて、ヘッド部52は第2図の構造に分路54を設けた改良型である。インク補給路

55よりインク室53とインク分路54にインク84を満たし、オリフィス56より発熱体57にエネルギー入力58よりエネルギーを供給し、インク84をガス化させてインクを噴射させる。第4図(B), (D)はインクの噴射過程を図示したもので、第4図(B)に於て、インク室53とインク分路54に満たされたインク84に発熱体57により熱を印加することによつてガス59を発生し体積膨脹をおこしてオリフィス56よりインク67を押し出す。第4図(D)に於いてはインク路53, インク分路54にインク84を充満させ、発熱体57にてガス化したガス60は更に膨脹し、矢印62の様にインク分路54のインク84と共にインク粒子61を噴射せる。第4図(D)はインク粒子64が噴射完了した状態で、63はガス化したインク微粒子で、インク分路54、及びインク路53から気圧の低い発熱体57のインク路53に矢印65, 66の如くインク84が流入し、オリフィス56は外気とインク圧とのバランスがとれて表面張力にて初期状態

に保たれる。この方式に於いてはインク分路 54 の働きによつて、インク噴射時のインクの補給と、インク噴射後の圧力室へのインク補給が正確に成され信頼性が向上する。

次に第5図にて別の実施例を説明する。第5図(A)の68はヘッド部であり、インク噴出口69にインクオリフィス部70とアルコール系または水性または有機溶剤等である媒体79のオリフィス部71が接続して設けられている。72は媒体79が表面張力にて保持される為の空気室である。73は発熱体で電極74と通じる。電気信号入力端子75よりエネルギーが供給される。76は媒体留めで、77の補給口を通じ媒体タンク内78の媒体79を供給する。80のインク槽は81のインク補給口より、82のインクタンクのインク83を補給される。一連のインク噴射動作を第5図(B), (C), (D)にて説明すると、第5図(B)に於てインク83は媒体79が発熱体73によつてガス化されて、噴出口69より外部にガス88が噴出されると、その時の真空作用

によつてインク89が引き出される。第5図(C)に於て引き出されたインク粒子92は、ガス圧が上昇するに従つてガス90により噴出口69より外にインク粒子92が噴射される。第5図(D)に於て発熱体73のエネルギー印加を停止することによつて、液体である液体のガス化は止まり、インク83の噴射は停止する。またインク粒子95は初期ガス圧により加速されて、ガス96と共に印字紙に衝突して印字される。この方式によれば、発熱体によるインク液の変質が無く、インクオリフィスの目詰りも無くなる。

更に別の実施例を第6図にて説明する。インクジェットプリンタヘッド部97はインクオリフィス部98と連通する。インク圧力室99及びインク圧力室99へのインク補給口100及びインクタンク101とインク102のインク供給系と、インクを噴射するための圧力印加手段である。液体が充填されている圧力室103と、圧力室103の液体と接触している発熱体104と、弾力性に富む圧力伝達板105より構成されている。イン

クの噴射は発熱体104にて液体をガス化させ内圧を上昇させて、圧力伝達板105を点線状106に変形させ、インク圧力室103を加圧しインク粒子107を噴射させる。この方法は液体をガス化させる時の大きな体積変化によつてインクを噴射させる事が出来るものであつて、インク粒子の体積からガス化体積は非常に小さなもので可能であり、現在の圧電素子使用のインクジェットヘッドで不可能であつた超小型のヘッドが製造可能となる。108は発熱体104への電気信号入力端子である。尚発熱体によるガス化の場合、ヘッド部の放熱が充分であればガスは発熱体へのエネルギー供給の停止と共に液化して静止状態にもどる。

別の実施例を第7図にて説明する。第7図(A)のヘッド109はインク110と、アルコール系あるいは水性あるいは有機溶剤等の液体の媒体111にてインクを含み2系統の液系より構成されている。インク噴出口112はインク吐出口113を複数ガス流室114に露出され、ガス流室114と接するインク路は弾性の高いガラスある

いは金属からなる弾性体115にて処理されている。媒体の噴出口116は発熱体117で構成され、入力信号端子118と結合されている。インク119はインク留121と連結している。媒体供給口120は媒体留122と結合されている。

次に第7図(B), (C), (D)に於いてインク噴射について説明する。第7図(B)に於いて媒体噴出口116の発熱体117が加熱されて123に示す如くガス化されて、ガス流室114に噴出されると、この時の圧力によつて弾性体115が並みインク124を押し出そうとする。更に第7図(C)に於て、押し出されたインクはインク噴出口112より噴出するガス125の作用によつて、真空化されたガス内をインク粒子126が飛びてる。第7図(D)に於いては、ガス流127中を飛ぶインク粒子128に加速がついた所で発熱体117の加熱を停止すると液体のガス化による体積膨脹加圧は停止して弾性体115も静止時にもどり、ガス流室114も外気とバランスがとれる。一連の動作によつてインクが噴出

する。この方法によれば、インクを直接加熱しない為にインクの変質がおきないことと、ガス化させる材料を充分体積変化の大きい材料、あるいは気化しやすい材料を選別でき従来のインクを利用出来る。またインクの目詰りもなくなる。又気体流の為のポンプも必要なく構成が簡素化される。

以上の如く、本発明はインクオンデイマンド型に於いて、ガス化によるインク噴射を可能にすると共に、ガスによつてインクの目詰りを防ぐことが可能となり、インクジェットプリンタの構造も簡単で、且つ高密度型が製作でき量産、機構上に於いても工業上有益であり、その他の分野にも応用される。又ヘッドの構造に於いても、一文字単位のマルチ噴出口ヘッドあるいはライン噴出口ヘッドも可能となり、印字の正確さ及び印字スピードも上げることが可能となり、請求の範囲を限定するものではない。

#### 図面の簡単な説明

第1図(A), (B), (C)は従来の実施例

28はガス

29はインク粒子

第2図(D)に於いて

30はガス

31はインク粒子

である。

第3図に於いて、

36から42はオリフィス

361から421は発熱体

43は共通電極

45から51は各ヘッドの連結電極

である。

第4図(A)に於いて、

53はインク路 54はインク分路

55はインク供給口 56はオリフィス

57は発熱体

第4図(B)に於いて

67は押し出されたインク

59はガス

53はインク路

54はインク分路

56はオリフィス

57は発熱体

である。

である側断面図であり、

1はヘッド

2はハウジング

3はインク入力管

4はオリフィス

5は圧力室

6は圧電素子

7, 9は電極

11は歪方向

12はインク粒子

15は圧電素子の歪方向

13はインク粒子

を示す。

第2図、第3図、第4図、第5図、第6図、第7図は本発明による一実施例であり、いずれも断面図である。第2図(A1)は断面図、(A2)は側面図であり、第2図(A1)に於いて、

16はハウジング 17は発熱体

18は電極

21はオリフィス

24はインク槽

である。

第2図(B)に於いて、

26はガス 27はインク

第2図(D)に於いて、

第4図(C)に於いて、

60はガス 61はインク粒子

第4図(D)に於いて

63はガス 64はインク粒子

第5図(A)に於いて

68はヘッド部 69は噴出口

70はインクオリフィス部

79は媒體

72は空気室

73は発熱体

74は電極

77は媒體補給口

78は媒體タンク

80はインク槽

81はインク補給口

82はインクタンク

第5図(B)に於いて

86はガス 69は噴出口

88はガス

89は引張られたインク

第5図(C)に於いて

90はガス

69は噴出口

92はインク粒子

第5図(D)に於いて

95はインク粒子  
である。

第6図に於いて

96はガス  
98はオリフィス  
100は捕給口  
102はインク  
104は発熱体  
107はインク粒子  
である。

第7図(A)に於いて

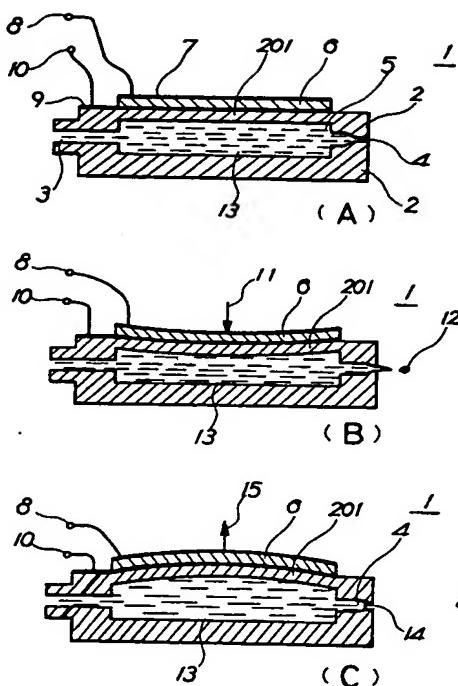
109はヘッド  
111は媒体  
113はインク吐出口  
114はガス流室  
116は媒体噴出口  
119はインク供給口  
120は媒体供給口  
第7図(B), (C), (D)に於いて、  
123はガス  
124は押し出されるインク

特開昭54-161935(6)  
125はガス  
127はガス  
である。

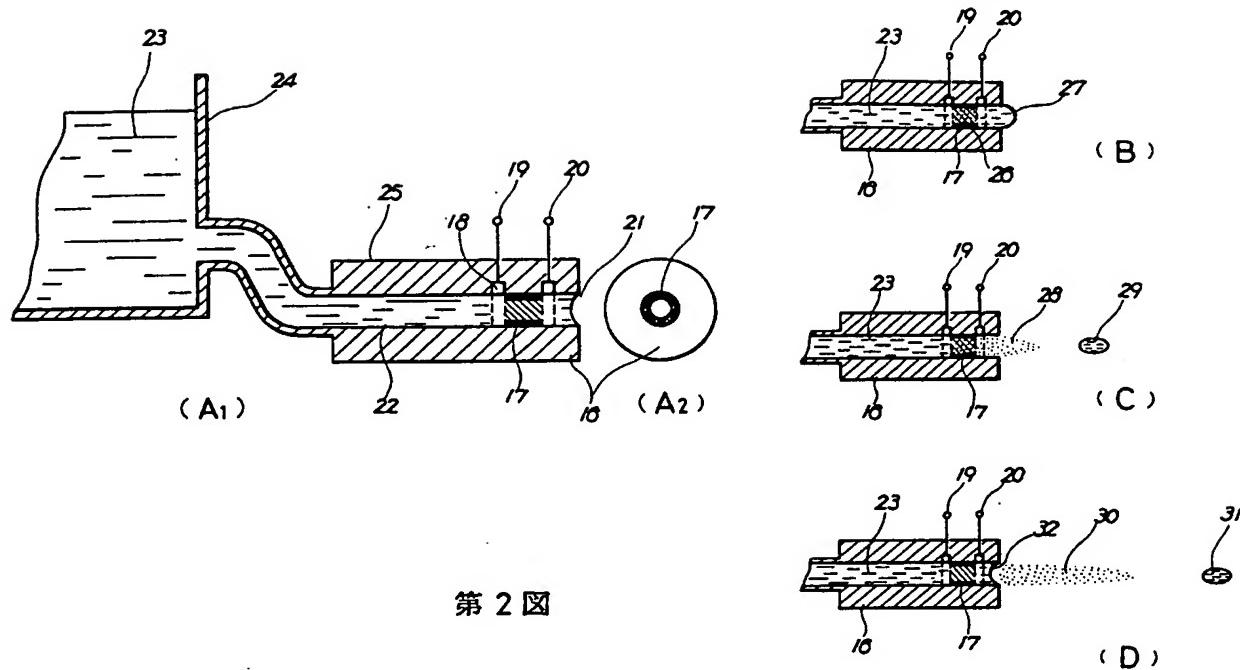
以 上

出願人 信州精器株式会社  
株式会社 謙防精工會

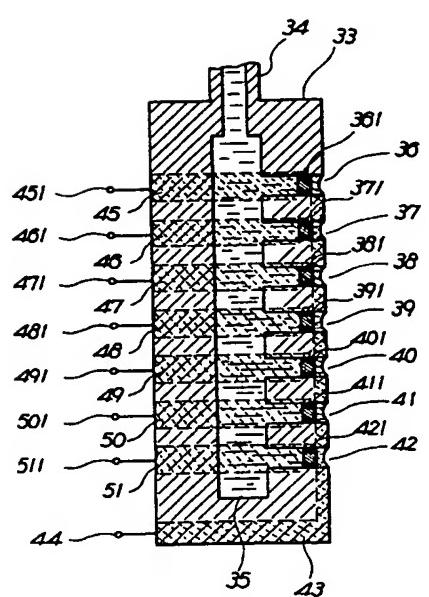
代理人 弁理士 最上



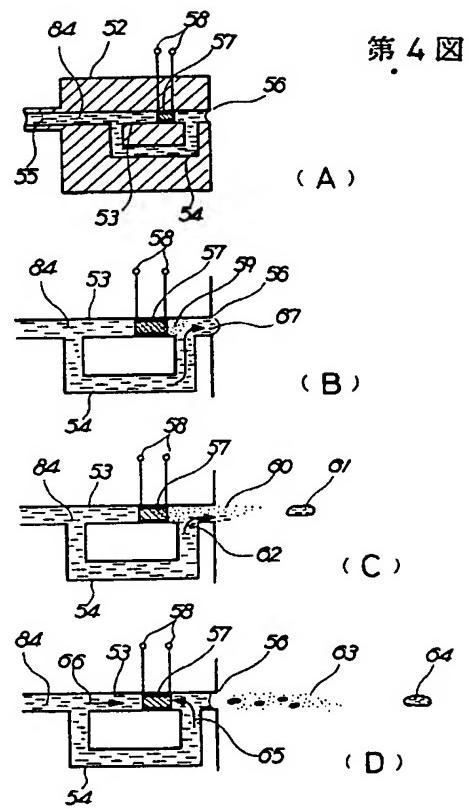
第1図



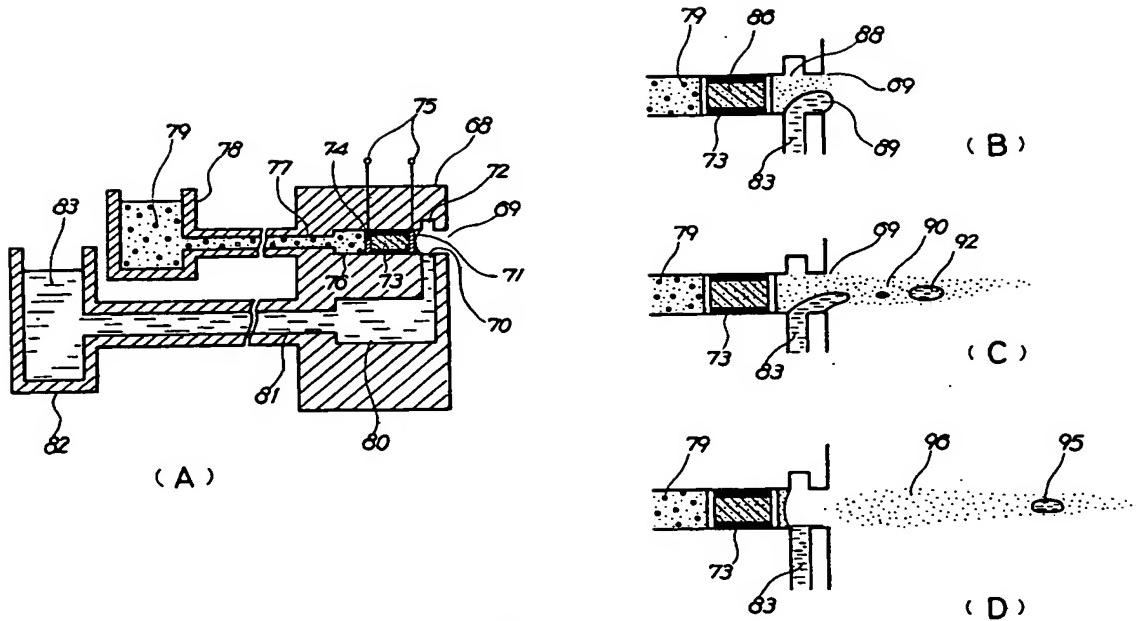
第2図



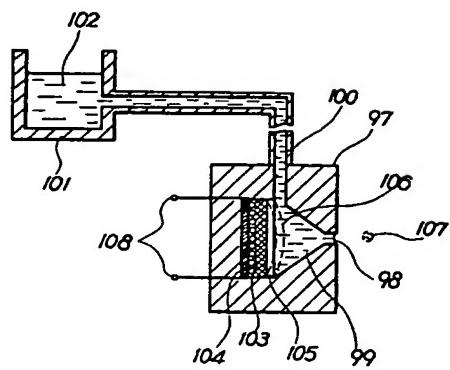
第3図



第4図

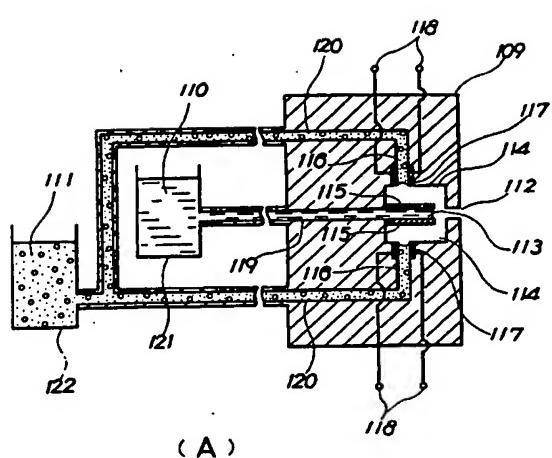


第5図



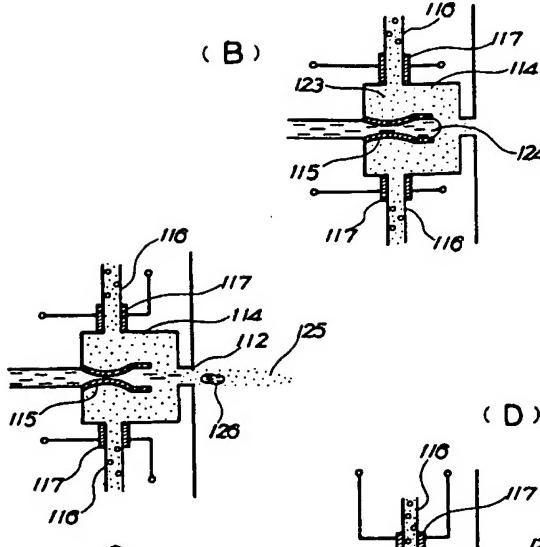
第6図

特開昭54-161935(9)



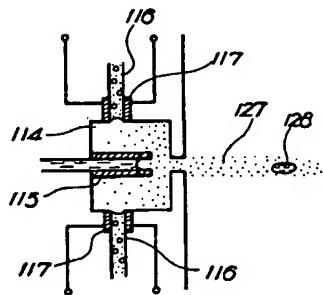
(A)

(B)



(C)

(D)



第7図

